

英米文化学会会報

第 77 号

平成 20 年 10 月 15 日



緑陰にたたずむヘレン・ケラーの生家。視覚も聴覚も失い苦闘する彼女を教えるために、弱冠 20 歳にして家庭教師としてマサチューセッツ州からやって来たアン・サリヴァンは、東部とは風土がまるで違う南部にあるテネシー川南岸のケラー家まで、どんな使命感に燃えて 2000km にも及ぶ遠い旅をしてきたのだろう。風に揺れる木々のざわめきの中で、それを思った。
(アラバマ州タスカンビアにて、撮影：佐野、2007 年 9 月)

目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会 第 127 回例会のお知らせ
- ◆ 分科会担当より 分科会開催報告・分科会会員募集
- ◆ 学術担当より 紀要『英米文化』第 39 号論文募集
- ◆ 財務担当より 年会費の未納年度分の扱いについて
- ◆ IT 担当より 「英米文化学会会報」の電子化について
- ◆ 事務局より 会員消息
- ◆ 賛助会員コーナー

◆英米文化学会第 127 回例会 (担当：小林弘理事)

下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席下さい。

日時：平成 20 年 11 月 8 日(土) 午後 3 時 00 分～6 時 10 分

(例会受付開始：午後 2 時 30 分)

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 55 年館 553 教室 <正門の真正面の建物です>

JR 総武線および地下鉄有楽町線、南北線市ヶ谷・飯田橋徒歩 5 分、(p.4 に地図を掲載)
地下鉄新宿線・大江戸線市ヶ谷駅徒歩 5 分、東西線飯田橋駅徒歩 5 分)

懇親会

場所：教職員食堂 (55 年館 2 階) 午後 6 時 20 分～8 時 30 分

会費：2000 円

今回の懇親会は学会の忘年会でもあるので懇親会のみ参加も歓迎いたします。

例会開会挨拶

会長

小野 昌 (城西大学)

(3:00—3:10)

研究発表

1. アンケートから見える高校生の辞書使用の実態
—英作文に必要な辞書検索能力とは—

(3:10—3:50)

発表 上田 藍 (文教大学附属高等学校)

司会 鈴木明夫 (東洋大学)

2. リキャストの特徴とアプリクの役割

(3:50—4:30)

発表 石川正子 (日本大学)

司会 平川敦子 (城西大学)

————— 小休止(4:30—4:40) —————

3. 2種類のタスクを用いたインターアクション研究から見えてくるもの

(4:40—5:20)

発表 加藤洋昭 (青山学院大学)

司会 大東俊一 (人間総合科学大学)

4. 英語母語話者を標準モデルとしない伝達能力の有効性について

(5:20—6:00)

発表 金子智香 (茨城大学)

司会 松谷明美 (高千穂大学)

閉会の挨拶

理事長

石川郁二 (法政大学)

(6:00—6:10)

研究発表抄録

1. アンケートから見える高校生の辞書使用の実態
—英作文に必要な辞書検索能力とは—

上田 藍 (文教大学附属高等学校)

高校生の英作文指導において辞書は必要不可欠な存在である。本研究では辞書の指導前後に行った質問紙調査の結果と英作文との2つのデータを基に高校生への辞書指導の経験や、辞書使用の実態を検証し、英作文に必要な辞書検索能力とそれに有効な指導法について考察を行う。被験者は私立中高一貫校に所属する高校3年生である。実際の指導では辞書の持参を義務付け、以下のような指導を行った。辞書の表記の仕方に関するもの(発音記号、品詞、動詞・名詞・比較級・最上級の活用形、派生形、自動詞と他動詞、反意語など)、電子辞書の活用の仕方(熟語の検索、スーパージャンプ機能など)、日本語での言い換え練習、用例の活用法などである。実際の英作文にみられる、指導後の辞書を引く頻度、順番、目的、参考箇所、必要な情報を見つけられなかった際の対応の仕方などに関する変化について、考察を行う。

2. リキャストの特徴とアプテイクの役割

石川正子（日本大学）

リキャスト(recast:修正し言い直してあげること)は外国語教育現場で最も頻繁に使われているコレクティブフィードバック(つまり訂正したものを提示してあげること)だが、その効果については研究者たちの一致した見解はないように思われる。学習者の誤りを明示しないため一般的に暗示的フィードバックと分類されるリキャストだが、その与えられ方は一様ではなく、そのことが様々な研究結果につながっているのかもしれない。今回の発表ではリキャストの特徴と共に、その効果を計る基準としてしばしば用いられるアプテイク(uptake:学習者の反応)について考察する。いくつかの研究結果を比較しながら、リキャストに対する学習者の発言であるアプテイクの第二言語習得において果たす役割と、リキャストの効果を判断する基準として果たしてアプテイクは適当であるかどうかを論じる。また日本の英語教育現場でリキャストを有効なフィードバックとして活用する可能性についても考察する。

3. 2種類のタスクを用いたインターアクション研究から見えてくるもの

加藤 洋昭（青山学院大学）

タスクの認知的負荷が第二言語産出に与える影響を調べるために、シンプルなタスクと複雑なタスクの2種類のタスクを使って日本人の英語学習者を対象にしたインターアクション研究を行った。シンプルなタスクでは5ヶ国のグラフを用い、複雑なタスクでは9ヶ国のグラフを用いた。学習者にはその2つのタスクを行う前に、情報交換をする際の助けになる表現をインプットとして与えておいた。タスクは国別に殺人・窃盗・交通事故の数を表したグラフを使った。実験は3項目のうち、ある1項目が共通の情報としてペアに与えられ、それをきっかけに情報交換をして空欄になっている箇所を埋めていくという実験である。その実験の結果、複雑なタスクの方がインターアクションを促進し、多くのインプットが使われ学習する機会が与えられたことがわかった。最後に本研究の結果を基に、学習者の注意を効果的に言語形式に向けさせるために、授業でどのようにタスクを用いると良いかを考察する。

4. 英語母語話者を標準モデルとしない伝達能力の有効性について

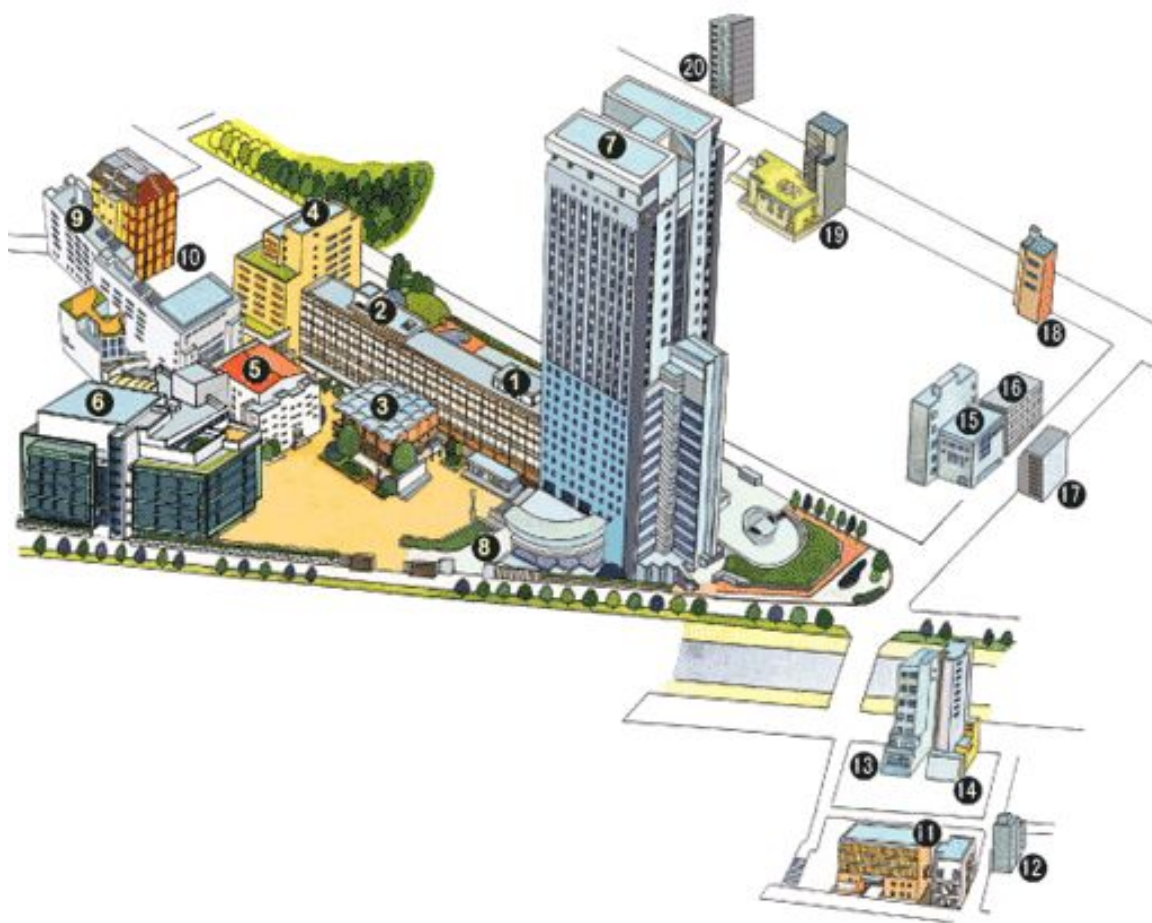
金子智香（茨城大学）

日本人英語学習者が言語活動で自由発話に抵抗感を示す理由のひとつに、英米語から逸脱した言語使用に劣等感を抱く英米語至上主義が挙げられる。その英米語至上主義に陥る一要因として、マイケル・カナレ(Michael Canale)とメリル・スウェイン(Merrill Swain)とにより理論化された、言語教育における伝達能力の概念が考えられる。彼らの言う伝達能力は、近年日本でも盛んなコミュニカティブな言語教育の習得目標とされ、母語話者の言語使用を第二言語学習者の能力の判断基準としている。このことは、日本人英語学習者に、英語母語話者の言語使用を最終到達目標として強いることとなり、英語に対する抵抗感や劣等感を深める可能性が考えられる。その一方で、現在では効果的な異文化間コミュニケーションを目指した、母語話者を能力の判断基準としない伝達能力の概念が提案され、議論もされている。本発表では、その提案され、議論されている伝達能力の有効性と、それにまつわる問題点について考察する。

第127回例会会場（法政大学市ヶ谷キャンパス<富士見校舎> 55年館）

JR・地下鉄：JR 総武線および

地下鉄有楽町線・東西線・南北線・新宿線・大江戸線の飯田橋駅・市ヶ谷駅利用



①の建物が55年館。正門から入ると、最も高い建物⑦（ボアソナード・タワー）の左側

◆分科会開催報告

(分科会担当理事：須田理恵)

<第6回発禁問題研分科会報告>

●7月12日、高島美和先生により「オスカーワイルド『サロメ』の上演禁止の要因についての一考察」というテーマで研究報告がありました。上演禁止の理由として聖書以外に、家父長制に基づく家族制度の維持を指摘、参加者から、ジェンダー論への質問などさまざまな意見が出されました。

●9月に開催された分科会

発表者：宗形賢二

内容：19世紀転換期アメリカの検閲：

コムストック・サンガー・ドライサー

日時：9月27日（土）午後4：30

場所：日本大学歯学部3号館

◆分科会会員募集

分科会名：「認知心理学的アプローチに基づいた外国語としての英語教育研究」

分科会略称：「英語教育研究」分科会

発起人代表者：佐藤 健 satoken74(at)gmail.com

発起人：栗津俊二、伊藤泰子、奥野郁子、佐藤 健、鈴木明夫

外国語としての英語を日本語母語話者に対してどのように教育すべきかという問題について明確な拠り所を持つ研究を行いたいと考える。具体的には、Walter Kintschらが主張する文章理解の3つのレベルである、「逐語的表層・テキストベース・状況モデル」の3表象を理論的枠組みとして、英語教育における「文あるいは文章の処理」について聴覚・視覚情報処理の両観点から研究を行っていきたいと考える。

上記分科会入会ご希望の方は代表者、または発起人にご連絡下さい。

分科会担当理事

須田理恵

<おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただきます。

メール作成のときには、お手数とは存じますが、@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

◆ 学術担当より紀要『英米文化』第39号論文募集

(学術担当理事：上野和子)

当学会の紀要『英米文化』第39号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当の上野和子(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)までお送りください。

紀要『英米文化』投稿規程 (平成20年6月14日改訂)

<投稿規程>

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

<執筆要項>

1. 長さ・形式 和文論文は12,000から16,000字数の間にまとめる。A4用紙に38字×25行、フォント12で打ち出す。英文論文も4,000から5,000語数を目安とし、A4用紙に75字×25行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字標記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文のAbstractをつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
 - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
 - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌5部と抜き刷り50部を進呈する。負担金は一頁につき2000円とする。

以上

◆財務より 年会費の未納年度分の扱いについて（一部再掲） （財務担当理事：山根正弘）

今年度分の年会費納入がお済みでない方は、お早めに郵便振替にてお振込み下さいますようお願い致します。

さて、過去に未納がある場合、振り込まれた最新の年会費は未納年度に振り替えて補填するため、実際に入金した年度と年会費台帳上の記録が一致しないことがあります。皆様の年会費は入金年月日・入金額・年度・入金方法（郵便振替通知票の続き番号）など漏れなく記載し責任をもって管理させて頂いております。

なお、振替用紙は5月の会報に同封致しましたが、ゆうちょ銀行・郵便局に備え付けの振込取扱票もご利用できます。

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

納入状況の問い合わせ：山根正弘 MasahiroYamane(at)SES-online.jp

◆「英米文化学会会報」の電子化について （IT担当副会長・常任理事 佐藤治夫）

昨今の電算機の発達により、当学会も、学会ドメイン上のホームページ、オンライン入会申し込み、電子出版などで対応して参りました。お気付きのように、個人情報保護法により、学会会報上に、入会、転居など会員の消息情報を掲載しなくなりました。これにより今年度からは、お手元に郵送しております「英米文化学会会報」は、学会ホームページ上にて公開しております

「英米文化学会会報」

<http://www.ses-online.jp/news.html>

と全く同じ内容となりました。上記のURLには、本来のカラー判が常時掲載されておりますので、郵送バージョンが不要となる会員も多くなりました。学会では、省エネも考慮して、メール到達可能会員には、会報発行毎に、発行通知メールを、クリック可能なURL

例 <http://www.ses-online.jp/news76.pdf>

とともに差し上げて、情報の周知をいたしたいと考えております。メールアドレスをお持ちでない会員には、今までと同様に白黒のコピーを送らせていただきます。また、メールアドレスを学会にお知らせいただいた会員も、何らかの事情から郵送のバージョンが必要な場合は、ご遠慮なくメールにて事務局までお知らせいただくという形式を検討しております。会員の皆様からの、ご意見・ご希望をいただければ幸いです。

◆事務局より

(事務局担当理事:大東俊一)

<会員消息>

新入会員

省略

◆賛助会員コーナー

学術出版やテキストなどでお世話になっている英米文化学会賛助会員の各出版社から新刊案内等を頂きましたので紹介させていただきます。

女たちのシェイクスピア
英米文化学会 編
小野 昌 監修



A5 判並製 150pp.
2,426 円 (税込)

アメリカ 1920 年代
—ローリング・トウェンティーズの光と影—
英米文化学会 編
君塚淳一 監修



四六判並製 407pp.
2,950 円 (税込)

KINSEIDO 金星堂
Tel: 03-3263-3828
e-mail: text@kinsei-do.co.jp
<http://www.kinsei-do.co.jp>

<私>の境界
二〇世紀イギリス小説
にみる主体の所在
●津久井良充・市川薫編著
[定価]:3,675円



**キーワードで読む
ロレンス**
—「関係性」の視点で
●鈴木俊次著
[定価]:2,940円



**充実の英語教材は
当社HPからどうぞ**
●特に医療・看護・介護・
リハビリの現場で役立つ
多彩なメディカル英語教材
を揃えました。



鷹書房弓プレス Tel.03-5261-8470
<http://aob.webcata.biz/wct/take-yumi/index.cgi>

08新刊 こうすれば英文は書ける
Learn to Write English
近藤恭子・小野 昌著 [定価]:1,785円

スポーツの歴史と文化
Sports, History and Culture
大平 章・大木 富 編注 [定価]:1,785円

英米文化学会会報 第77号 編集/発行: 英米文化学会 編集責任者: 佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp
年会費等振込先: 郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777
学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>